

2015年12月9日

各位

医化学創薬株式会社

新規前立腺がんマーカー抗 PSA 糖鎖抗体開発に関する共同研究契約締結のお知らせ

医化学創薬株式会社（代表取締役社長：伊藤勝彦、札幌市）は、国立大学法人熊本大学（学長：原田信志、熊本市）（以下、熊本大学）及び株式会社トランスジェニック（代表取締役社長：福永健司、福岡市）（以下、トランスジェニック）と、「新規前立腺がんマーカー抗 PSA 糖鎖抗体開発に関する研究」について共同研究契約を締結することに合意いたしましたので、お知らせいたします。

このたびの共同研究は、当社の糖鎖ペプチド合成技術、トランスジェニックの GANP マウスを用いた抗体作製技術および熊本大学における前立腺がんの解析技術を融合させ、前立腺がんに対する特異性の高い抗体を作製し、新規前立腺がんマーカーによる診断応用を目指すものです。

前立腺がんは 男性の部位別予測罹患数第1位（2015年）です。本疾患の診断法は、腫瘍マーカーである前立腺特異抗原（Prostate Specific Antigen; PSA）を用いる血液検査が普及していますが、PSAは前立腺肥大や前立腺炎においても上昇し、特異性が低いことが課題となっています。

近年、前立腺がんにおいて PSA の糖鎖修飾が変化していることが報告されていることから、この糖鎖修飾の変化を捉えることが可能な抗体を作製し、新規前立腺がんマーカーを開発することで、特異性の高い診断法を確立し、がん診断の精度を向上させることが期待できます。

◆ご参考 : 前立腺がん

前立腺がんは、前立腺の細胞が正常な細胞増殖機能を失い、無秩序に自己増殖することにより発生します。罹患率は 65 歳前後から顕著に高くなりますが、進行は緩やかで、前立腺がんは早期に発見すれば手術や放射線治療等で治癒することが可能なことから、早期・的確に診断することが必要です。

: 糖鎖

糖鎖とは、各種の糖が 2 個から数万まで様々にグリコシド結合によりつながった一群の化合物で、タンパク質や脂質その他の低分子とも結合して糖たんぱく質、糖脂質となり体内で重要な働きを担います。免疫疾患、がんの発生や転移、生活習慣病など多くの疾患のメカニズムに糖鎖の異常が関わっていると考えられており、疾患における糖鎖の構造や機能などの研究による新規診断法や治療法の開発が期待されています。

: GANP®マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein)とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生する B 細胞で発現しています。

GANP®マウス技術とは、この GANP 遺伝子を過剰に発現させた GANP®マウスを用いて抗体を作製する技術です。GANP®マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。

以上